

海外生活レポート

アフガニスタン 12

Norko Dethlefs(紀子・デスレフツ)さん

お茶会へのお誘い

早朝、祈りの時を告げる声が響いてくるころには、窓からは何とも心地よい涼しい風が入ってきます。

気候が暖かくなると、良くも悪くも活動が盛んになってきます。学校も大学も活況を呈し始めましたし、町中ではそこかしこで建設工事や結婚式が見られます。

友人を招いたり招かれたりすることも多くなるのですが、ある友人から息子さんの割礼を祝う午後のお茶会に誘われたのは、ちょっと異例でした。眼科医の方からその招待を受けたあと、フィンランド人の友達がそうした集まりの様子を詳しく教えてくれました。それによるとリビングで医師が施術する間、招待客は12歳の男の子を囲んで見ていて、それが終わってからお茶とお菓子がふるまわれるそうです。その医師の家族を訪問したのですが、そのややかしいこと！

曾祖母さん、お祖母さん、お母さん、奥さん、お義母さん...等々、みな一様にスカーフで頭を覆っているのが区別するのが大変。おまけに医師の「叔母であり妻の姉妹でもある(?)」という女性が大勢の子どもを連れてやってきたので、子どもの数は全部で20人ほどにもなりました。何の権利もない部外者の手に自分たちの財産が渡ってしまわないようにするために同族結婚は大事なのだ、部外者というのは信用がおけないから、と教えられました。

底辺層とエリート層

近頃、物乞いをするひとの数が増えています。イランに出稼ぎに行き工場などで不法就労しているところを逮捕され、すぐさま追い返され国に戻ったものの生きて行くあてがないという人々です。ヘラートはイランとの国境に近いので、これまでにこうした人々が大量に流入してきました。イランは国境警備を次第に厳しくしているらしく、いやが上にも失業者は増える一方です。

避難所の女性たち

女囚用留置所の訪問は相変わらず実現しないままですが、いま私は週に2回、避難所の女性たちを訪問しています。共同寝室の形をとっている彼女たちの居住環境はさほどひどいものではありませんが、いずれも逃げ去

た女性ばかりなのに、まるで囚人のように建物を出ることを許されていません。読み書きの出来ない人もいますし、彼女たちの話してくれる経験談はどれも身振いするほど恐ろしいものです。一体、その人たちに英語を教える何になるの?と思われるかも知れないけれど、彼女たちはたとえ僅かでも外の世界のことを見聞きするのに実に貧乏なのです。私が女性週刊誌を持って行ったときなどは、奪い合いの喧嘩になったほど。見たこともないものが載っているページに声を失うほど驚いて、ちょうどここ1週間練習している「What is this?」という言い回しを大いに活用して質問してきます。自分専用の英語教材を手にしてふた言み言英語が話せるようにするだけでも、彼女たちの世界をほんの少し明るくするのに役立っているみたいです。かえってこちらの方が頭が下がる思いです。ひどい虐待を経験してきた彼女たちが、それにも拘わらず快活なのは本当に驚くばかりです。

別世界の住人

私が大学やリーダーシップ開発研究所で教えている若い男女の生徒たち、それから医師や講師の人たちは、避難所の女性たちとはまるで別世界の住人という感じです。彼らはこの国の将来を担う希望の星で、その多くが臆することなく民主主義、平等、人生の意味といったことについて質問したり、それらを課題として取り組んだりしています。研究所ではコーペイの「第8の週間」を学んだり、サーヴァント・リーダーシップの概念などジョン・マクスウェルの教材からの引用をする人もいます。

ヘラートからカブールへ

夫は、できる限りたくさんの人に良い眼科医療を普及させようと本当に頑張っています。先ごろ、この件で新たな課題を引き受けることになり、そのために首都カブールを拠点に仕事をしなければならなくなりました。慣れたヘラートを後にするといっても、シドニーからヘラートに来たときほど引き裂かれるような気持ちにはならないでしょう。でもヘラートで知り合ったたくさんの友人たちにさようならを言わなければならないときには、きっとやっぱり心が痛むに違いありません。夫はその後も定期的にヘラートの病院を訪れることになりましたが、私はカブールに居を構えて新たに友達をつくることになりました。また何かの形で現地の人々に役立つことができれば、と思っています。

私たちのアフガニスタンでの暮らしに関心をもってくださって感謝しています。

紀子

世界の食卓から

タイ料理 — トムヤンクン —



材料(2人分)	
鶏ガラスープ	350cc
手長えびまたはブラックタイガー(有頭)	4尾
ふくろ苺又はエリンギ	5~6個
パクチーの根	1本
プリックキーヌー(唐辛子)	2~3枚
パイマックルー(こぶみかんの葉)	2~3枚
レモングラス(斜めに切る)	3~4cm
カー(なんきょう)スライス	3枚
塩	小さじ1/2
ナムプラー	大さじ1
砂糖	小さじ1/2
パクチー	適量

作り方

1. パクチーの根とレモングラス、プリックキーヌーはすりこぎでたたく。パイマックルーは葉脈を取り除き、手でちぎる。
2. 鶏ガラスープに1と薄く切ったカーを入れ、塩を加えて、煮立たせる。
3. 2~3分して香りがでてきたところで、殻をむいたえび、ふくろ苺を加える。
4. アクを取り除きながら煮込み、ナムプラーと砂糖を加える。
5. 火を止めてレモン汁を加える。器に盛り、パクチーを散らす。

編集後記

今年日本人が初めてブラジルに移住してから100年目ということで、川崎市国際交流協会では年間テーマとしてこのことを取りあげています。9月にはブラジリアン・交流フェスタも開催予定で、ブラジルについて、もっと知ろうという意識が高まっています。特集でお話をうかがった皆さんによると、ブラジルでも移住100周年をお祝いしようという盛りあがっているそうです。ブラジル在住の日本人及び日系ブラジル人の方たちは真面目で勤勉できれいだ好きとブラジルでは評価されているそうです。私たちが『古きよき日本』を大切にしている日系ブラジル人の皆さんを見習うべきではないだろうかと思わため思いました。

青柳 尚子

国際交流協会だより

2008インターナショナル・フェスティバル in カワサキ

2008年7月13日(日) 午前10:00~午後5:00
この時期、毎年開催される川崎市の風物詩！
世界各国の人々と交流できるチャンスです。皆様のお越しをお待ちしています。

青少年国際交流事業

2008年8月18日(月)~21日(休)
中・高生対象のイベントです。海外からの留学生28名と1泊2日(中学生)・2泊3日(高校生)をとともて過ごして親交を図ります。

市民共同おひさま発電所完成記念イベント

2008年8月24日(日)
市民の皆さんの寄付によりセンターに太陽光発電システムが設置され、「みんなで止めよう温暖化！」を合言葉に点灯式、なかはら打ち水大作戦、夏の温暖化対策キャンペーンなどが行われます。

ブラジリアン・交流フェスタ

2008年9月20日(土)~21日(日)
ブラジル移住100周年を記念してのイベントです。ブラジルの魅力がギュッと詰まったフェスティバルです。どうぞご期待ください！



川崎市国際交流センター

〒211-0033 川崎市中原区木月町 2番 2号
TEL 044-435-7000 FAX 044-435-7010
http://www.kian.or.jp/kic/

